

昨今本紙では段ボール産業におけるTFP(全要素生産性)向上への取り組みが報じられています。これについて現場でどんな改善が行えるか考えてみます。

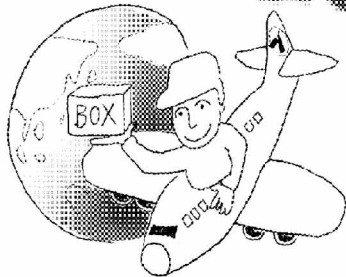
段ボール工場で朝から晩まで同じ箱を生産しているのは、フィリピンのバナナケース工場、ニュージーランドのキウイケース工場といったところで、世界の大半の工場では多種多様なケースを生産しているため、オーダー毎にコルゲータから製函ラインまでセット替えが必要になります。そのため労働集約型産業になり人手がかり、長時間労働も恒常化してしまいます。

このよつな中、少し今、欧米の工場でも作業軽減でき時短と現場の魅力アップにつながる新技術をレポートします。貼合ライド具、「モビロール」では通常、原紙ロールをコルゲータのロー

今、欧米の工場では絨毯表面のゴミを取る「ゴロコロ」のよつな道具、「モビロール」で片手で移動してまっす「写真」。この道具を使うことで肉体労働の

## TFPを考える

# 世界の現場



## 第29回

ルスタンドまで、移動に運動会の太玉転がしのように全身で運んで

軽減だけでなくスピーディーに、さらに5、6個のロールを同時に

ますが、これはかなりきつく腰痛の原因になり、女性には困難な作業です。

移動させることができ、女性には困難な作業です。

向上します。従来は動力源のエアホースが

必要で使い勝手に課題もあつたよつですが、リチウム電池の進化によつてコードレスに。

進化した工場では『モビロール』を駆使することでフォークリフトの進入を減らし安全性が向上しただけでなく、地面からの粉塵も抑制できて職場環境の改善にもつながつたよつです。

質問・問合せは有功社シフト貿易部03-949-9926へ。次回掲載予定は来年1月7日号。

